

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) モザンビーク国別研修「教員養成校における現職教員教授法改善」

(英文) Improvement of teaching methodology of IFPs on In-service education and training in Mozambique

(2) 研修期間

平成26年6月30日～同年7月18日

(全体受け入れ期間：平成26年6月25日～同年7月19日)

(3) 研修員数 7人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 香西 武

2. 研修内容

案件目標：

研修員の所属先（教員養成校）において、教員養成での授業改善及び小学校理数科教育における学習意欲を促す授業手法が共有される。

単元目標：

- 1) 小学校理数科教育の理論・方法論に関する知識を獲得し、自国の課題等（カリキュラム、教材、指導方法等）を整理できる。
- 2) 学校教育現場の視察、授業実践を通して、小学校理数科授業実践における課題や留意点を整理できる。
- 3) 授業設計、教材選択、学習指導案の作成、授業評価ができる。
- 4) 自国における小学校理数科教育及び教員養成校の改善のために各研修員の所属先で実践可能なアクションプランを作成できる。

3. 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

(1) 案件目標（アウトカム）

案件目標：

研修員の所属先（教員養成校）において、教員養成での授業改善及び小学校理数科教育における学習意欲を促す授業手法が共有される。

指標：

研修員が本邦研修終了時に提出する活動計画が、活動可能で教育改善に寄与するレベルに達成しているか確認される。また、研修員が帰国後、8-12月の活動計画案に基づき所属組織の中や学校教育現場で研修を実施し、その活動をまとめた報告書が鳴門教育大学及び教育省教員養成局、JICAモザンビーク事務所に提出される。

(2) 単元目標（アウトプット）

単元目標①：

小学校理数科教育の理論・方法論に関する知識を獲得し、自国の課題等（カリキュラム、教材、指導方法等）を整理できる。

指標：

研修員が研修中に行った授業分析及びその改善方法の考察の記述が4段階評価でB（やや優れている）以上であること。

単元目標②：

学校教育現場の視察、授業実践を通して、小学校理数科授業実践における課題や留意点を整理できる。

指標：

研修員が小学校現場での授業観察及び研修員による授業実施後に授業に関する意見を整理し、その記述が4段階評価のB（やや優れている）以上であること。

単元目標③：

授業設計、教材選択、学習指導案の作成、授業評価ができる。

指標：

研修員が研修中に実施したモザンビーク小学校における理数科授業改善のための授業案作成過程での教材作成、評価案、学習指導案等の発言や記述に対する評価が4段階評価でB（やや優れている）以上であること。

単元目標④：

自国における小学校理数科教育及び教員養成校の改善のために各研修員の所属先で実践可能なアクションプランを作成できる。

指標：

研修員が作成した研修実施計画案の具体性、実現可能性を4段階評価で行い、B（やや優れている）以上であること。